



ワルナスビ(悪茄子) <ナス科 ナス属>

北アメリカ原産の多年草。明治の時代に牧草と共に日本に入り中部地方以西に帰化。葉は互生し、長さ8~15 釐、幅4~8 釐の長楕円形で葉縁には深い鋸歯がある。高さは0.3~1 釐ほどになり、6~10 月ごろに直径約1.8 釐のナスやジャガイモに似た、白または淡紫色の花を付ける。果実は、直径約1.5 釐。ミニトマトのような実が付き黄色に熟す。葉や茎には鋭い棘があり、繁殖力がすこぶる旺盛で、手に負えないやっかいな雑草となっており、植物全体に毒を含む。このような性質を持つワルナスビ、実は、牧野富太郎により命名された。・・・▼一見すると柔らかそうな葉であるが、イタタタ・・・！と声が出るほど葉にも茎にも鋭い棘を持つ強者の草。気の毒な名を付けられたものだが、花は可愛い。▼植物の棘はさまざまな働きを持つとされ、例えば、動物からの攻撃から身を守る役割を持っていると考えられている。▼さて、ワルナスビはいかがなものか。酷暑の夏から解放され、秋の気配をふくんだ風に吹かれ、ひと時、命名された牧野博士に思いを馳せる。 ~佐伯区湯来町 2023・8~